

下水道局

局長と各事務所等若手職員との意見交換について

1 取組の概要

○現在進めている自律改革の一環として、局長と各事務所等若手職員との意見交換会を順次開催

【対象】11か所

流域下水道本部、下水道事務所（7所）、森ヶ崎水再生センター、基幹施設再構築事務所（2所）

○9月から現在まで7か所を訪問

○若手職員からは、仕事に関する思いや悩み、局事業について感じていること、局長への質問など活発な発言

○局長からは、若手職員に期待すること、下水道局職員としての心構え、今後の職務遂行などに対しアドバイス

2 これまでの実施状況

- 9月 7日 西部第一下水道事務所
- 9月13日 第一基幹施設再構築事務所
- 9月16日 北部下水道事務所
- 10月11日 南部下水道事務所
- 10月20日 西部第二下水道事務所
- 11月 4日 中部下水道事務所
- 11月25日 流域下水道本部

3 意見交換の様子



4 今後の予定

引き続き、年度内に残る4か所を訪問する予定

下水道局

下水道局が行う大規模事業の情報発信について

1 目 的

下水道は見えにくく、お客さまにはわかりづらい性格を持つ。

そこで、下水道局で実施する大規模事業にスポットを当て、事業の概要や効果、施工手順などの情報を発信することで、下水道事業を「見せる化」する。

また、複雑でわかりにくい下水道システムを明らかにすることで、お客さまの下水道への関心を今まで以上に高めていくとともに、お客さまの理解と協力を求めていく。

2 名 称

「千代田幹線整備事業」

3 配信方法

下水道局ホームページに掲載し公表していく

4 配信内容（検討中）

- 下水道の現状と取組
- 事業概要（位置図、施工方法など）
- 事業効果
- 事業の特徴
- 事業の施工手順、など

5 今後のスケジュール

- 平成28年11月 素案作成、道路管理者との協議
- 平成28年12月 工事受注者との調整（施工手順、地元調整等）
地図情報、写真等の著作権確認
- 平成29年 1月 局内調整、決定、HP配信

多摩地域下水道の情報発信（メールマガジンの試行）について

1 目的

多摩地域全体の下水道事業運営の効率化を図り、都と市町村が共同で実施している流域下水道における連携をさらに強化するため、情報発信及び共有化のツールとして、今年度からメールマガジンの提供を試行（本年12月開始）

2 名称

「TOKYO 流域下水道マガジン」

3 配信対象

多摩30市町村下水道所管課及び流域下水道本部の職員

※現時点では、下水道専門の行政情報であり、一般都民へは配信しない

4 メルマガの方法（検討中）

市町村の下水道所管課の組織アドレスに、2か月に一度程度メルマガを配信

5 配信内容（検討中）

- 経営分析や議会对応等にも資する情報（各種計画や予算・決算情報など）
- 事業運営上の参考となる情報（各センター、幹線、新技術の情報など）
- 共通課題等の特集（長寿命化計画、公営企業法適用、不明水対策など）
- 市町村の取組の紹介（先進事例の紹介、各市町村の特集など）

6 メルマガの編集

- 事務局は流域下水道本部（若手職員を中心にした構成）
- 市町村職員に編集の協力依頼を検討

7 今後のスケジュール

- 平成28年11月2日 第一回編集会議を開催
- 平成28年11月 編集コンセプトを固め原稿作成
- 平成28年12月8日 第二回編集会議を開催予定
（八王子市・立川市の若手職員各1名を編集委員に加え開催）
- 平成28年12月 メールマガジン（第一号）を試行的に配信
- 平成29年 2月 メールマガジン（第二号）を試行的に配信
- 平成29年 4月 メールマガジンを配信開始

浸水対策

1 事業概要・現状と課題

■事業概要・現状

- 浸水対策を実施することで都市機能を確保し、お客さまが安全に安心して暮らせる東京を実現する。
- 「東京都豪雨対策基本方針（改定）」に基づき、区部全域で1時間50ミリの降雨に対して浸水被害の解消を図る。
- 大規模地下街や甚大な被害が発生している地区について、整備水準をレベルアップした下水道施設を整備する。
- 計画規模を超える降雨に対しても、ハード・ソフト両面から対策を検討・実施し、安全を確保する。

■課題

- 事業実施にあたり立坑等事業用地の確保が困難であり、また周辺住民の方との工事着工に向けた合意形成が難航し、完了予定時期が遅れることがある。
- 下水道は多くが地下にあり、普段目にするのが少ないことから、事業の効果が見えにくい。さらに工事期間の長期化に対する懸念や浸水発生地域と工事箇所が必ずしも一致しない状況に加え、工事の安全性や周辺環境への影響などがわかりにくいことなどから、周辺住民の方の理解を得るのに時間を要することがある。



【浸水発生地域と工事箇所の乖離(例)】

- ハード対策だけで安全を確保するには限界があり、ソフト対策の充実が必要である。
- 現在、下水道管内の水位情報は光ファイバー水位計によりリアルタイムで把握。
- 光ファイバーケーブルが敷設されていない下水道管では、リアルタイムでは計測できない。

2 今後の方向性について

■工期短縮と事業効果の早期発揮

点検の視点:「都民ファースト」「事業の効率化」

- 現場状況に即した継続的な工程の見直しや高度な技術の活用により工期短縮。
- 一部完成した施設の暫定的な稼働により事業効果を早期に発揮。

■下水道事業の「見える化」

点検の視点:「都民ファースト」「情報公開」「事業の効率化」

- 普段目にするのが少ない下水道事業を積極的に発信するため、施設やサービスを「見える化」。
- 下水道の役割や事業効果、工事における施工方法の安全性など「見えない下水道を見せる」ことで、周辺住民の方に下水道事業への理解や信頼を深めていただくとともに、下水道事業を円滑に推進。

見えない下水道を見せる

- 下水道の仕組みと役割に加えて、東京下水道の魅力や素晴らしさも発信していく
- 工事における施工の安全性を知ってもらう

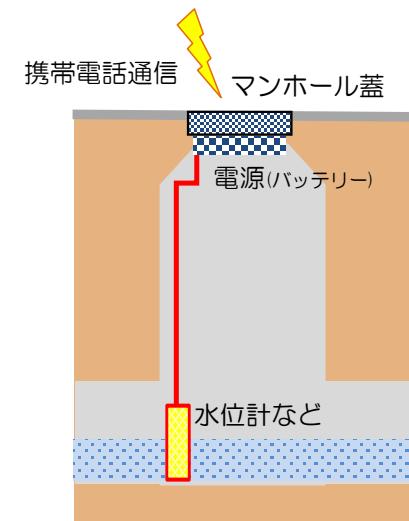


【幹線工事現場見学会】

■幹線水位情報の提供

点検の視点:「都民ファースト」

- 計測器、電源及び通信機能を内蔵させたマンホール蓋を用いることで、光ファイバーケーブルが敷設されていない箇所における管きょ内の水位などをリアルタイムに把握できる技術を開発・導入。



【多機能型マンホール蓋(イメージ)】